

『朝日新聞』2006年(平成18年)10月27日(金)

# 図書館の本が泣いている

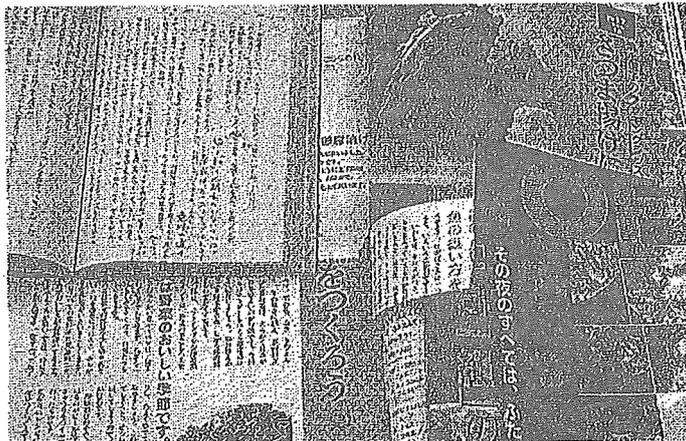
図書館の蔵書が切り取られたり、汚されたりする被害が後を絶たない。横浜市内に18ある市立図書館では、921冊で被害が見つかった。深刻さを知ってもらおうと、18の図書館は27日から11月9日までの秋の読書週間に、切り取られるなどしてダメージが大きい本の実物を展示する特別展「本が泣いています。」を開く。(入尾野篤彦)

## 切り取りなど被害現物 横浜市立の18館が展示

読書週間の期間中

「怪傑張作霖」。大正12年に出版された伝記だ。横浜市西区の中央図書館では、この本が被害にあった。ページをめくると、黒や赤で線が引かれている。破られているページもあった。関東大震災や戦争をくぐり抜けた貴重な書物のため、破

れたページをテープで補修するなどして貸し出しを続けるという。中央図書館が市内の図書館を調べたところ、921冊の本が被害にあっていた。内訳は、落書きが465冊。切り取りが431冊。付録の盗難が25冊だった。被害総額は



落書きされた小説、レシピが切り取られた料理本、アイドルの写真が切り取られた雑誌。被害は様々だ

約147万円に上るといふ。蛍光ペンなどで勝手に線が引かれているものも多く、料理本のレシピの部分が切り取られたものもあった。廃棄するし

かないものも多い。「本を破ってしまっただ」や「ぬらしてしまっただ」などと、借りの主が申告してきた場合には、原則、弁償してもらおうが、ほとんどは、いたずらをした人が誰なのか分からずに泣き寝入りしているのが実態だ。職員が声を

かけても「借りのときから破れていた」と話す人や、夜間に返却ポストに入れて知らんぷりする人が多いという。

そこで被害にあった本の展示することを、図書館の職員たちが思いついた。被害の実態を市民に把握してもらうことで、マナー向上を促すのが目的だ。中央図書館の黒岩道子司書は「本は市民の財産。この機会に図書館の現状を知ってもらいたい」と話している。

## 図書館でネット検索

### 市教委、5カ所にパソコン

横浜市教育委員会は市立図書館での情報収集に役立ててもらおうと、このほど中央図書館(同市西区若松町)に続き、新たに五図書館にインターネット検索用のパソコン

を設置した。利用者が、図書館の資料に加えて最新情報も活用できるようにしていくのが狙い。パソコンを設置したのは、旭図書館(旭区白根)、金沢図書館(金沢区泥

亀)、栄図書館(栄区公田町)、都筑図書館(都筑区茅ヶ崎中央)、緑図書館(緑区十日市場町)の五館。いずれも一台ずつで、誰でも無料で利用できる。

一回の利用時間は三十分で、希望者は当日各図書館のカウンターで申し込み。ほかに利用者がいない場合は再度申し込みができる。

パソコンの利用はホームページの閲覧を目的としているため、文書作成や印刷、メールの送受信などはできない。また、ゲームや有線サイトなど一部のサイトへの接続が制限されている。フロッピーディスクなどの記録

媒体も使用できない。市内全十八の市立図書館に先駆けて二〇〇六年二月に検索用パソコン五台を設置した中央図書館では、一日当たり約九十

人の利用があるという。市教委は今後、全市立図書館でインターネット検索ができるよう設置を進めていく方針だ。

# 医療情報コーナー開設

今月19日(火)から利用可能 オープニングでイベントも



西区老松町にある横浜市中央図書館

横浜市中央図書館では、病気に関する入門書から専門書、書店では入手しにくい資料などを揃えた『医療情報コーナー』を12月19日(火)に開設する。オープニングイベントとして19日から来年1月28日まで、企画展示『「闘病記」をご存知ですか?』が行われる。

\* \* \*

このコーナーには、身体についての疑問や病気に對する情報を得ることができ、入門書から、医療関係者向け専門書まで「自分でほしい情報にたどりつく」た

めのガイド機能が用意されている。服用している薬や治療方法など、医療に関する知識を得られる場所は少ないのが現状だが、同コーナーではエビデンス(科学的根拠)に基づいた診療ガイドラインや、医師・薬剤師も使っている診療や処方方針の参考書も揃っている。また、特定の病気の患者や家族が集まり情報交換などを行なっている団体の資料も用意されている。オープニングイベントの企画展示は、患者やその家族が体験を綴った「闘病記」。医学書などからはわ

からない「生きた情報」を得られる。著者やテーマによつて図書館の様々な場所に配置されている「闘病記」を集めて展示し、合わせて病名別の目録も公開する。さらに、健康福祉局医

療政策課との共催による『医療情報を詳しく解説する連続講座』も開催される。

## 【中面につづく】

『タウンニュース(中区・西区版)』  
2006年(平成18年)12月14日(木)

## トップ記事つらき 開設イベントで連続講座も

横浜市中央図書館では医療情報コーナー開設に伴い、オープニングイベントとして企画展示のほか、健康福祉局医療政策課共催による『医療情報を詳しく解説する連続講座』も開かれる。

第1回目は、平成19年1月14日(日)午後1時～3時「賢い患者になるための医療情報入門」がん情報を中心に。先着200名。講師は、家族が白血病になつ

たことで経営から医療の世界に転進したジャーナリストで日経メディカル編集委員の埴岡健一氏。

第2回目は、平成19年1月21日(日)午後1時～3時「くすりを知る」。先着200名。講師は横浜市薬剤師会会長の加藤昇一氏。

今年6月から市民貸出が始まった市大の医学情報センターの上手な使い方を医学図書館の司書がレクチャーする。会場は3日間とも横浜市中央図書館。希望回のみ参加可能。各回とも定員になり次第締切。

第3回目は、平成19年1月28日(日)午後1時～3時「横浜市大医学情報センターの使い方」。先着50名。

申し込みは電話・FAX・Eメール・直接来館にて受付中。FAXおよびEメールの場合は、希望

回、氏名、連絡先を明記のこと。直接来館の場合は、同館3階カウンターで受付。申し込み先は、☎045・262・7338 ☎045・262・0054  
E-mail: [city.yokohama.jp](mailto:city.yokohama.jp)  
医療情報コーナーに関する問い合わせは、横浜市中心図書館調査資料課 ☎045・262・7338。

# ハマ舞台作品 番付に

## 市立中央図書館アンケート調査

横浜市立中央図書館(同市西区老松町)は、横浜を舞台とした本や歌、映画を扱っている作

### 横 綱

本 ヨコハマ物語

映画 あぶない刑事

歌 ブルーライトヨコハマ

調査は、同図書館所蔵 展に運動して初めて企画の各種書物を集めた特別した、「本」映画・ドラマ

- 【本】
- ①ヨコハマ物語(大和和紀、1981~83年)
  - ②霧笛(大仏次郎、34年)
  - ③午後の曳舟(三島由紀夫、63年)
  - ④横浜殺人事件(内田康夫、89年)
  - ⑤パスワード探偵シリーズ(松原秀行、95~06年)
- 【映画・ドラマ】
- ①あぶない刑事シリーズ(1968年~)
  - ②ヨコハマメリー(06年)
  - ③たったひとつの恋(06年)
  - ④私立探偵瀧マイクシリーズ(93年~)
  - ⑤喰いタン(06年)
- 【歌】
- ①ブルーライトヨコハマ(1968年)
  - ②赤い靴(21年)
  - ③伊勢佐木町ブルース(68年)
  - ④よこはま・たそがれ(71年)
  - ⑤港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ(75年)

品アンケート調査の結果を相替番付風にまとめた。同図書館利用者を対象に調査した。本では人気に分かれ、映画などでは最近の作品が注目された。

「歌」のテーマ別に選ぶ形式で十一月に実施。四百八十八人から回答があった。

本の「横綱」は、三百七十八票中二十一票を獲得した漫画「ヨコハマ物語」(大和和紀)。次いで、小説「霧笛」(大仏次郎)と「午後の曳舟」(三島由紀夫)がそれぞれ十八票で並んだ。

漫画や児童書などジャンルは幅広く、得意も好らけた。「横浜を題材にした作品が多すぎ、一つに絞りきれないので」と同図書館。

映画・ドラマでは、五百二十三票中百八票が「あ

が四十九票で続いた。歌では八百五十一票中百七十九票で「ブルーライトヨコハマ」が一位になったほか、「一九六〇~七〇年代に流行した」この当地ソングが上位を占めた。

結果は「前編」まで各十六位までを番付表にして同図書館一階展示コーナーで公開している。来年一月八日まで(二十九日~一月三日は休館)、入場無料。問い合わせは、同図書館電話045(26)20050。